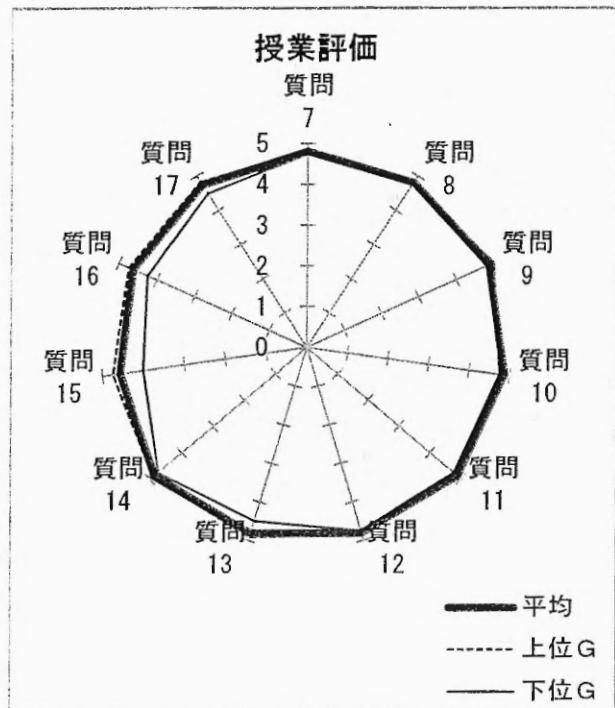


# 科目コード 205 (2017年度 後期)

文学部 現代日本文化学科

黒木 香 古典文学講義Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	4.8	4.8
質問8	4.8	4.8	4.8
質問9	4.9	4.8	5.0
質問10	4.9	4.9	4.8
質問11	4.9	4.9	4.8
質問12	4.8	4.8	4.8
質問13	4.8	4.9	4.5
質問14	4.9	4.9	4.8
質問15	4.6	4.8	4.0
質問16	4.6	4.8	4.3
質問17	4.8	4.8	4.5
平均	4.8	4.8	4.6

質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問8：教員の授業時間遵守

質問9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

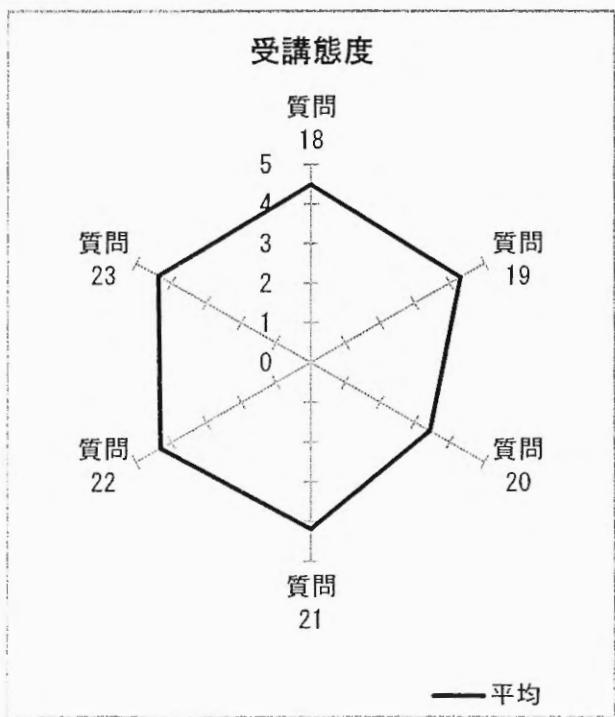
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	3.4
質問21	4.2
質問22	4.3
質問23	4.4
平均	4.2

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	黒木 香	古典文学講義Ⅱ	17名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

前期開講の古典文学講義Ⅰとは異なり、平家物語・方丈記・徒然草など比較的内容についての知識が少ない作品を取り扱った。「災害」「死」「無常」をキーワードとしたので、面白い内容ではないだろうが、現代に生きる学生たちにとって、国を超えた身近な話題であると考えた。

テキストを使用しないため、事前に作品の内容を知っておくことは難しいので、前週に現代語訳を添えた注釈書のコピーを配布して、なるべく事前に読むことができるようになり、作品理解が深まるように心がけた。6名の留学生も含む、受講生全体での評価は上位下位の差はほとんど見られなかつた。ただし、質問15「授業を理解できたか」の評価がやや低いのは、細かな点についての理解が難しかつたからかもしれない。留学生6人の出身国や日本語の理解度には差があつたが、試験には全員問題なく取り組むことができた。

質問20「欠席回数」が3~5回と多めの学生がいた。欠席しないのが望ましいが、体調不良の場合もある。

質問21「予復習」に多くの学生が、取り組んだと答えている。配付プリントを読んだということであろう。取り上げる作品ごとに課題を提出してもらう予定であったが、今期は平家物語のみに留まつた。他にも課題を出して、調べてもらう必要があつた。

## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：古典文学講義Ⅱ

個人的なことだが、昨年は体調不良が続き、授業中に教卓から移動することが難しく、一方通行の授業になつた。2018年度には、もっと受講学生の側で質問したり、史料を見てもうべく体調を整えたい。

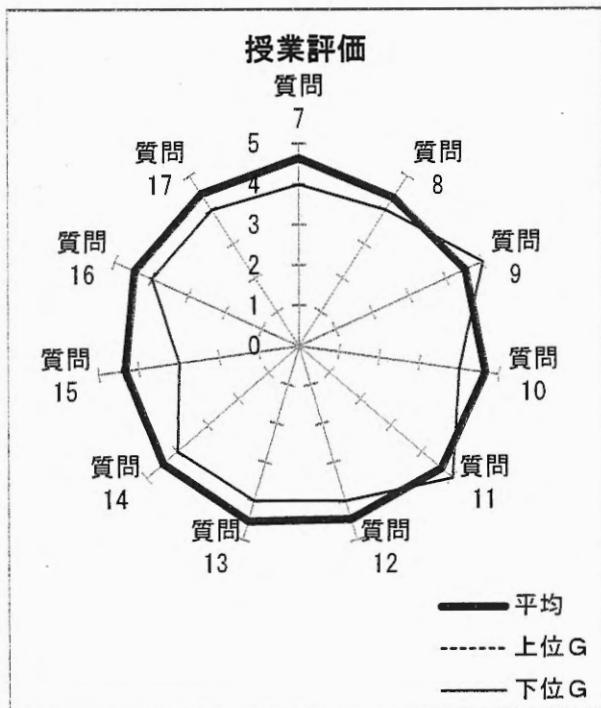
授業内で芸能としての平家語りをCDで聴くるが、より作品を身近に感じるためDVDなどの映像資料を来期に向けて準備したい。

また、軍記物語においては武具についても知る必要があり、パワーポイントを活用し、紙での配資料もさらに作成配付する予定である。

科目コード 220 (2017年度 後期)

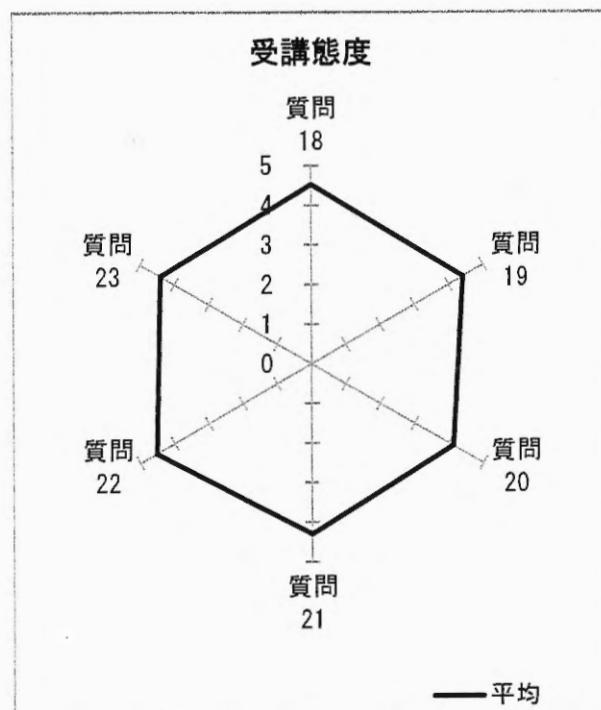
文学部 現代日本文化学科

常吉 幸子 出版文化



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	4.0
質問 8	4.4	4.4	4.0
質問 9	4.5	4.5	5.0
質問10	4.6	4.7	4.0
質問11	4.6	4.6	5.0
質問12	4.5	4.5	4.0
質問13	4.5	4.6	4.0
質問14	4.5	4.5	4.0
質問15	4.4	4.4	3.0
質問16	4.5	4.5	4.0
質問17	4.5	4.5	4.0
平均	4.5	4.5	4.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.1
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	常吉幸子	出版文化	20

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

このグラフの上位グループ・下位グループというのがいまだによくわからない。ただ、今回のこれらは、はっきり違う「意志」を示す特徴があるよう見える。質問15の「授業を理解できたと思うか」という質問に、3.0と、歴然と他と比べて低い回答があるからだ。この「下位グループ」が留学生のグループを意味するのかどうか、どの程度一致するのかはわからないが、このクラスは留学生の受講が比較的多いクラスで、だいたい半々ぐらい。他大学の外国人が多いクラスなどでは、一応話が聞き取りやすい、わかりやすいなどといつてももらっている。そこから思うのだが、もしこの二つのグループがある程度一致するのなら、留学生にとっては、発音・論理・趣旨が明瞭なところがわかりやすくていい、と評価してもらったことになるのだろう。他大学で講義をする際の評価はそうなのだが、この「特殊」な活水でこういう微妙だが肯定的な結果ができるとは意外でもあった。

この講義の内容は、数年来大きくは変わっていない。実際大枠は、20年来「全くかわる」ということはなかったと思う。江戸時代の出版の発生・成立・展開、さらにいわゆる「文運東漸」から須原屋一党的大活躍と受難、貸本屋はどう機能したか、といったことを骨子としてきた。毎回講義の初めに「今回のポイント」をあげ、約一時間にわたって、その内容を黒板一杯に板書しつつ講義し、最後に「今回のポイントは何だったか」をいってしめていたのだが、「ポイントが何かわからない」といわれて目が点になつたこともある。

PPTに組み上げてからは、そういうことも少なくなった。テクノロジーはありがたい。

## II. 2018年度に向けての取り組み

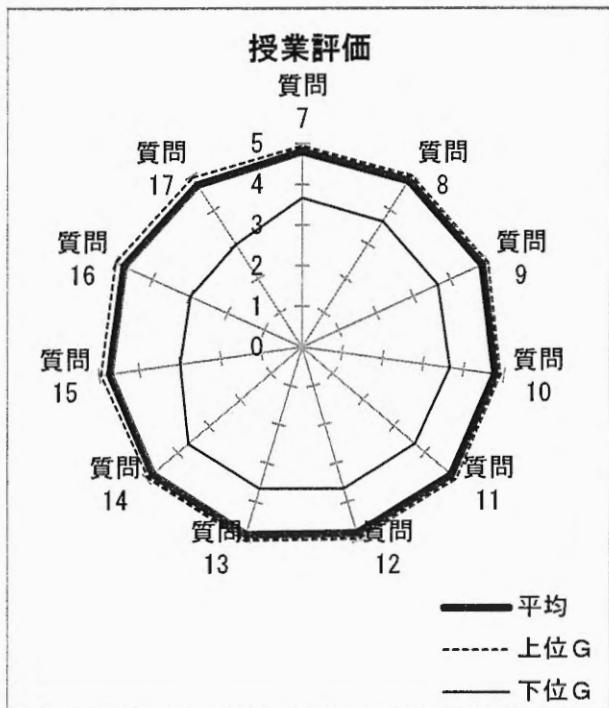
2018年度担当予定科目名：出版文化

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

アクティブラーニング、がいわれはじめて久しい。私も学生に問い合わせつつ、角度を変えつつ深く理解をさせることを工夫してきた。グループ討議させればアクティブラーニングでもあるまいとも思う。相変わらず熱意に欠ける様子で授業を受ける学生がいないわけではないが、それは縁なき衆生というものだろう。もっと否応なく授業に参加してもらうような、仕掛けを、今以上に工夫していきたい。

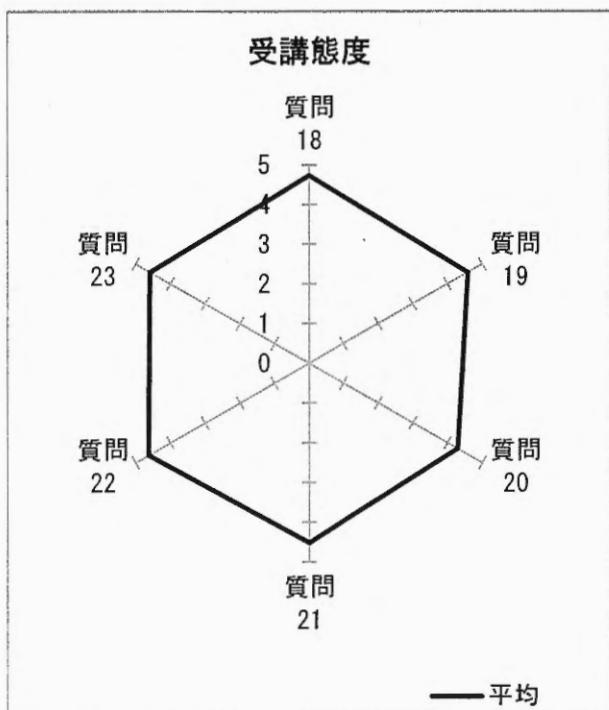
## 科目コード 230 (2017年度 後期)

文学部 現代日本文化学科 渡辺 誠治 日本語と教育 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	5.0	3.7
質問 8	4.9	5.0	3.7
質問 9	4.9	5.0	3.7
質問10	4.8	4.9	3.7
質問11	4.9	5.0	3.7
質問12	4.8	5.0	3.7
質問13	4.9	5.0	3.7
質問14	4.8	5.0	3.7
質問15	4.7	5.0	3.0
質問16	4.8	5.0	3.0
質問17	4.7	5.0	3.0
平均	4.8	5.0	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.3
質問21	4.5
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.6

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	渡辺誠治	日本語と教育 I	27

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

平均値と上位層の評価が高く、下位層の評価が低いのは、専門科目として妥当な内容であったと考えている。下位層に対するケアが今後の課題である。

日本語教員養成という分野に関心があまりない人にとっては難しい部分多かったと思う。

## II. 2018年度に向けての取り組み

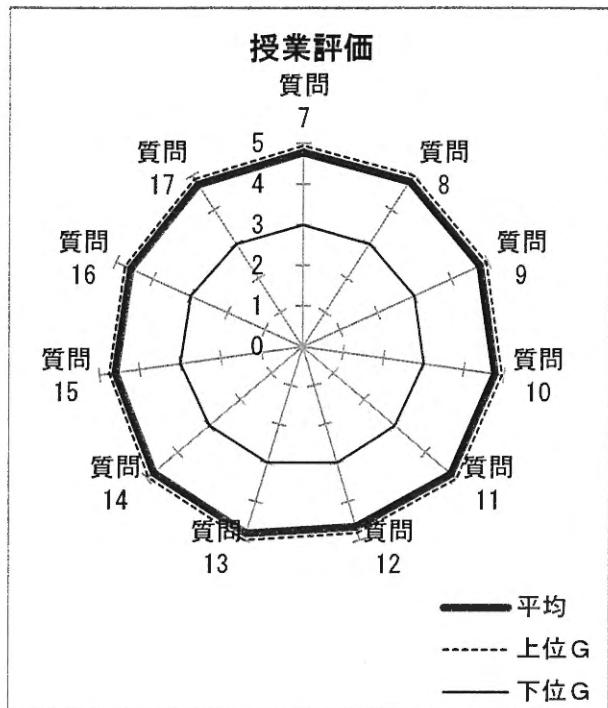
2018年度担当予定科目名：現代の日本語

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

グループでの活動を中心に構成したことはよかったです。モチベーションの差の解消が課題である。しばらくこのやり方で続けていきたいと思う。

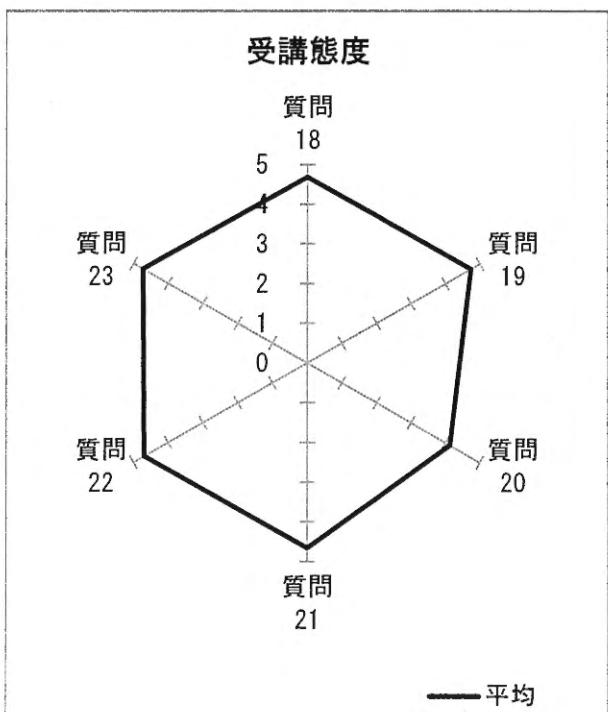
# 科目コード 231 (2017年度 後期)

文学部 現代日本文化学科 渡辺 誠治 現代の日本語Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	5.0	3.0
質問8	4.8	5.0	3.0
質問9	4.8	5.0	3.0
質問10	4.8	5.0	3.0
質問11	4.8	5.0	3.0
質問12	4.7	4.8	3.0
質問13	4.8	5.0	3.0
質問14	4.8	5.0	3.0
質問15	4.6	4.8	3.0
質問16	4.6	4.8	3.0
質問17	4.7	4.9	3.0
平均	4.7	4.9	3.0

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問8：教員の授業時間遵守  
 質問9：教員の話し方  
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11：教員の説明のわかり易さ  
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.7
質問20	4.1
質問21	4.7
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.6

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	渡辺誠治	現代の日本語Ⅱ	23

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

平均値と上位層の評価が高く、下位層の評価が低いのは、専門科目として妥当な内容であったと考えている。

下位層に対するケアが今後の課題である。

### II. 2018年度に向けての取り組み

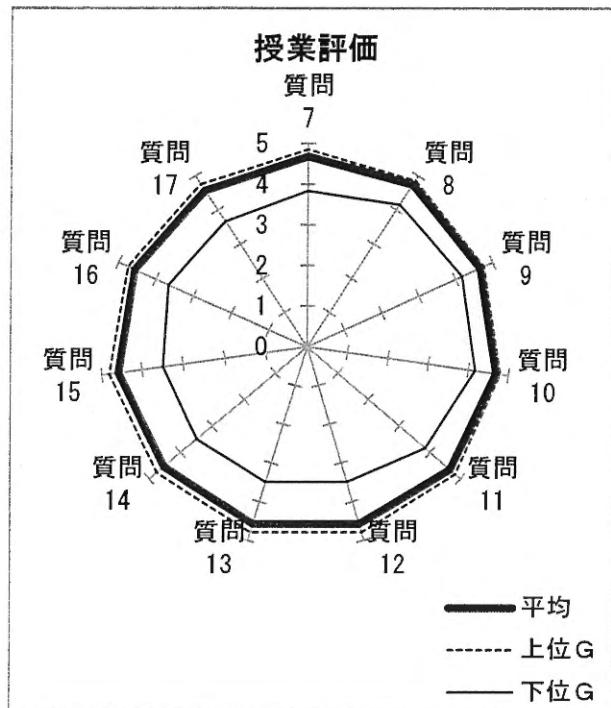
2018年度担当予定科目名：現代の日本語

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

かなりの情報量があるので、情報を表現につなげ、表現を通して理解するよう、授業の組み立てを調整したいと考えている

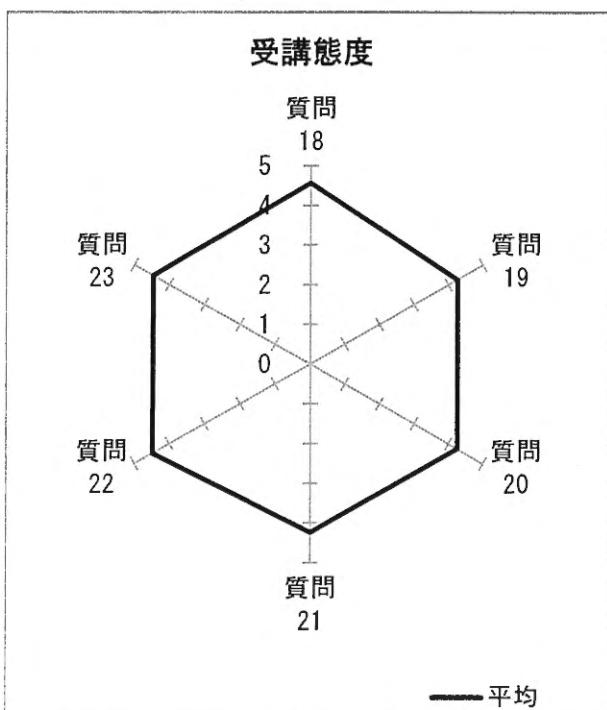
## 科目コード 240 (2017年度 後期)

文学部 現代日本文化学科 田中 俊廣 日本近現代文学史



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.7	4.9	3.8
質問8	4.7	4.9	4.2
質問9	4.7	4.8	4.2
質問10	4.7	4.8	4.2
質問11	4.7	4.8	3.8
質問12	4.6	4.8	3.5
質問13	4.6	4.8	3.5
質問14	4.5	4.8	3.5
質問15	4.6	4.8	3.5
質問16	4.6	4.8	3.7
質問17	4.6	4.8	3.7
平均	4.6	4.8	3.8

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.3
質問20	4.3
質問21	4.2
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.4

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	田中 俊廣	日本近現代文学史	37

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

理解している人と理解していない人の差があるようだ。むしろ、下位層にどう教えるかが問題のようだ。おそらく、高校までに近現代文学になじみがないのかもしれない。そして歴史にも。理解度の高い上位層も多いので、関心のない層に興味を持たせる方法を考えないといけない。

## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：日本近現代文学史

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

まず、何より文学の魅力を少しでも体験してもらうことが必要である。分かりやすく、要点を強調し、映像や図式的解説を加えながら、時代との関連を説明していきたい。